

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：神田保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者等が安心して子どもを預けられ「心も体も健康」な子どもの育成を目指すという理念の下に、地域との関りを大事にして、自然や伝統文化の中で子どもの育ちを豊かにし、集団の中での個の育ちを大事にしている。</p> <p>そして、0～5才児までの全体的な計画が作成されている。</p> <p>また、職員会で保育課程の評価をして、次年度への課題を検討・作成している。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>新しい園舎は南側に向けており明るく、0才児から3才児までが1階、4・5才児は2階で保育が行われている。園庭は桜やさくらんぼの木、藤棚が日陰を作っており、また、芝生スペースもあり、竹馬・縄跳びなど、子ども達の運動能力向上の活動も容易である。</p> <p>[検討課題]</p> <p>二階建ての園舎の夏は日ざしが強く、熱中症対策の検討が期待される。</p> <p>また、基本方針に謳う自然や伝統文化の理解を意図した写真やポスターなど、豊富な掲示スペースの活用も期待したい。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの子どもの家庭環境の実態を把握して、指導計画の中で個別の子どもの姿を記録している。</p> <p>そして、各場面における子どもの姿を記録するエピソードの導入で、子どもの姿を職員で共有し多角的に子どもをみるようにしており、子どもへの理解も深まり、保育に活かしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>エピソード記録を職員間だけでなく、保護者等にも伝えることで、園と家庭等での保育の一体的展開が更に期待できると思われる。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況] 0・1才児は家庭との連携を図りながら快適な生活ができるように、2才児は手洗い、うがいが習慣化でき、3才児は自立、4・5才児は生活習慣を身につけ、見通しを持ち生活できるようにと、各年齢ごとに発達を促す年間計画の中で体系付けられている。</p> <p>[検討課題] 清潔については紙芝居を活用しているものの、子どもが言われなくても習慣化され自立可能となるように、その根拠などの理解を進める更なる取り組みが期待される。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況] 子どもの姿から課題になることを職員間で話し合い、子どもが最後まで話を聞き集中して取り組めるように、また、友達の良い所を気づき、認め合うような遊びを考えて保育を行っている。 公共施設や公園、山・川も近くにあるなど、散歩コースがたくさんある。そして、木の実を拾ったり、それを活用しての創作活動など、恵まれた立地を活かしている。</p> <p>[検討課題] 習得支援に努めている社会的ルールなどが、園の内外の保育現場、また、家庭などでも自立した子どもの行動に表れるようにするなど、保育士が課題発見に気付く意識の高まりやその環境を整えるなどして、子ども達の成長支援への取り組みが期待される。 また、各散歩コースでの危険箇所や注意事項など、子どもの創作活動を通して意識の高まりを誘ったり、子どもにとっての社会資源を明確にするなどの新たな取り組みも期待したいところある。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況] 床暖房で暖かく、ハイハイしたり探索活動ができる広い空間で安心して生活ができている。 また、牛乳パックなどの手作りの玩具や絵本なども用意されている。 そして、離乳食の年間計画を下に家庭と共有・連携して保育を進め、また、行政の施策による支援もあり、保育士の配置は手厚くなっている。 さらには、12分おきの睡眠チェックの実施も確認できる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの姿を大切にしながら散歩に出かける機会を多くとり、始めて出会うもの、探索活動を大切にしていた保育が行われている。</p> <p>そして、保護者等との情報交換を大事にし、連絡帳を通して共に成長を共有している。</p> <p>また、行政のシルバー保育サポーターの来園が週2回あり、園児との遊びや会話を通して、人との関わりの機会を設けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>手厚い行政の施策とともに、毎日の実践の積み重ねを続け、更なる保育の質の向上を期待したい。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学前の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>3才～5才までの子どもの姿をとらえ、身体全体を使った遊びなどの年間計画を基に期案を立て、週案を基にした保育の実践を行っている。</p> <p>運動会では地域で伝承されてきている長持行列をとり入れたり、地区の文化祭にも参加している。</p> <p>また、年長児が年中児に掃除の方法を教えたり、年中児が0・1才児の午睡後の着がえを手伝ったりと、異年齢交流もたくさんある。</p> <p>そして、毎月クラスだよりを配布して子どもの姿を保護者等に伝えている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年度ごとの保育の振り返りや検証を進め、保育の質の更なる向上を期待したい。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>支援の必要な子には加配保育士を配置して、同年令のクラスと一緒に遊び発達を促している。</p> <p>また、個別支援計画を立案し、職員全員の研修としている。</p> <p>行政による巡回相談も充実しており、保健師などの訪問を活用して、保護者等と情報を共有し、共通理解を進めている。</p> <p>そして、就学前は教育相談も可能で、体験学習を経験する機会もある。</p> <p>なお、時間により空き部屋をクールダウンのスペースとしている。</p> <p>[改善課題]</p> <p>合理的配慮を意識した障害児保育の実践を、園全体の保育の質の向上に繋げる取り組みが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。 <input type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況] 未満児・以上児と、部屋別に保育をしている。また、未満児の利用も多くなってきており、ゆったりと過ごせるように職員の配置が行われており、以上児は長時間保育室に集まり、異年齢交流を楽しんでいる。</p> <p>[検討課題] 新たに始めた延長保育日誌の記録内容の充実、活動の活発な子どもには夕方6時過ぎのおやつやの検討や、成長の激しい子どもにとってのおやつやの意義を保護者等へ周知・理解を進めることも保育士の専門性と意識したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況] 近くの小学校との交流があり、音楽会・相撲大会の行事を参観したり、運動会にも参加している。また、夏休みには小学校の1年担任の訪問も企画されており、幼年教育研究会に参加しての研修も行っている。 そして、保護者等との懇談会では、就学にむけての手引きのプリントや、小学校からの学校だよりも配布し、幼保小連絡会や学校行事なども保育の年間計画の中に組み込まれている。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況] 保育園の保健マニュアルに沿い、子どもの心身の健康状態の把握で、その発育や発達に応じた園での生活が送れるよう支援している。また、既往症や予防接種については年2回のアセスメントにて把握をしている。 そして、保健だよりや園だよりにて健康に関する情報や取り組みを保護者等に伝えるとともに、子どもの日々の健康状態は送迎時や連絡帳にて情報交換を密として注意を払っている。 また、SIDSについては乳幼児の午睡時にブレスチェック表にて12分おきに様子の把握をするなど、きめ細かな取り組みが確認できる。</p> <p>[検討課題] 保護者等に対してもSIDSに関する知識や情報の提供で家庭への注意喚起を行うなど、園外での事故防止に向けた積極的な取り組みを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>[取り組み状況] 定期的な検診診断は身体発達及び健康診断の記録表にて記録し、その結果を保護者等に伝え、子どもの状態が分かるようにしている。食後の歯磨きは本人が実施後、必ず職員が仕上げ磨きを行い、磨き残しのないよう努めている。</p> <p>[検討課題] 検診後、治療等が必要な場合は受診を勧めるなど、完治に向けての連携した健康の維持・増進となる体制を期待したい。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>[取り組み状況] 職員はアレルギー疾患と緊急時対応について研修を重ね、知識を深めるとともに、毎月エビペンの訓練を実施している。 また、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に基づき、チェック表の作成・実施、声を出しての確認、保護者等との密な情報交換等、何段階もの工程、また、クラスの子供達にも理解を求め、事故発生防止に取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 該当児のアレルギーについて、配慮を持った他の子どもへのわかりやすい説明と理解を深めることで、保育士の死角を補う取り組みなどは期待したいところである。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>[取り組み状況] 食育年間計画を基に年齢に相応しい食生活習慣の習得や、食への関心を高める取り組みを展開し、保育課程、指導計画にて評価を行っている。 そして、年少児の保護者に対しては、栄養士が食育についての講話を通して食の大切さの理解を図ったり、保護者も給食と一緒に食する機会を数多く設けることで食事の様子を知ってもらったりと、保護者等と子どもへの食育の取り組みが実施されている。 また、当番の子どもがその日の献立を説明し、昼食やおやつへの期待感、調理室の様子が見られる環境やサンプルケースの掲示等で食への関心を高め、保護者等へは給食日より献立表の配布、サンプルケースの掲示で、その日の献立や量、食材産地の明示、レシピの紹介等も行っている。</p> <p>[検討課題] 当番が食材の名前やその産地を上げており、地図や季節の野菜表、調味料の効能など、図や写真を掲示しての教育的配慮も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>園庭でのさつま芋作りやプランターでの野菜作りを通しての野菜への興味やそれを食する喜びの実感体験、また、作ったさつま芋の焼き芋会の際は近所へお裾分けをするなど、地域との繋がりを大切にしている。そして、季節を感じる献立、行事食、郷土食、誕生日や希望献立など、豊富な内容で関心を高め、また、年数回のおにぎりデーでは、おにぎり持参で園外へ出掛け、自然の中で食を楽しむ機会も提供している。</p> <p>食事の摂取量は無理強いしない程度とし、苦手なものを食べた時は誉めることを忘れずに保護者等へも伝えている。なお、牛乳に関しては地元産の瓶牛乳を利用している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>長野県では県産品消費拡大を施策として進めており、主力県産農産物や県産品の利用がなぜ良いのかなど、子どもが理解できる教育的配慮も加えた新たな取り組みも期待したい。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育の方針や意図、保育内容については、保護者会、参観日、懇談会、個別懇談会、保育参加等にて理解を図る機会として活用している。</p> <p>また、送迎時に顔を合わせた保護者等には保育士が、情報の交換や相談で子どもの把握に努めている。</p> <p>そして、ホワイトボードの活用でその日の保育内容や活動を知らせている。</p> <p>さらに、家庭等との情報交換の重要性の意識も高く、記載内容・方法に差異が発生しない指導や、クラスの保育士同士で知らせるべきことも話し合っている。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>悩みや相談に対しては専門性を発揮し、保護者等が安心や前向きに考えられる支援、判断やサポートが難しい時は園長に相談し、適切な対応に心掛けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者等からの相談内容、それについての支援、その結果等の記録を活用したりして職員の共有化を更に進めたり、利用者調査結果での保護者等の気持ちについて話し合うなど、より信頼関係が深まる取り組みが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>虐待の早期発見となるように、保育士は身体測定、トイレ誘導時、子どもの表情に注視し、兆候を見逃さないように努めている。</p> <p>そして、疑いがみられた時は園長に報告して記録や写真に残し、場合により関係機関に繋げる体制は整備されている。</p> <p>また、支援を必要とする保護者等へはコミュニケーションの拡大や精神面でのサポートに心掛けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>虐待防止対策マニュアル等を用いての研修を継続的に実施して、権利侵害についての知識や理解、意識付けの更なる取り組みが期待される。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育計画に基づいた月案、週案、日案を通して自己評価を行い、保育実践の振り返りで問題点や改善点を明らかにし、次の取り組みに活かしている。</p> <p>また、自己評価チェックリストの実施での振り返りや、園内での研究保育、エピソード記述でのお互いの検討など、学び合う中で保育の質の向上へと繋げる環境がある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>経験豊富な保育士と、若い保育士や実習生では学んできたことが異なっており、受け入れ後の検討や、各保育士の研修履歴の見える化を図って研修の体系化へと進めるなど、新たな体制作りも期待したいところである。</p>